

「平和の火」キャンドルナイト

来月18日 九度山町「慈尊院」境内で

「平和の火」でキャンドルナイトをと、きのくに国際高等専修学校2年の深尾明加さん(16)と母の一絵さん(45)―九度山町下古沢―が、地域などでキャンドルナイトを開いてくれる主催者を募集している。深尾さんらも6月18日午後7時、同町慈尊院の「慈尊院」境内でキャンドルナイトを開催する。県内では初めての試みだ。

【上鶴弘志】

開催主催者も募集

「平和の火」は、福岡県八女市星野村で今も燃え続けている原爆の残り火。旧星野村出身の若者が、広島県の原爆で犠牲になった叔父の形見にと持ち帰り、同村が守り続けている。スローライフ運動として広がったキャンドルナイトでこの「平和の火」を使い、平和や地球のことなどを考えようと、「キャンドルナイトワンピース」実行

委(大阪市)が呼びかけ、毎年夏至のころに実施し今年で4回目。

深尾さんらは、明加さんが学校で原爆について学んだのをきっかけに、星野村から「平和の火」を運んで地域の主催者らに渡す「ピースステーション」を買って出た。事前に名簿を星野村に提出した人にしか分けることができないため、希望者は30日までに深尾さんへ。6月12日に慈尊院で採火セレモニーを開き、火を渡す。深尾さ

んが開くキャンドルナイトには誰でも参加でき、事前申し込みは不要。申し込みと問い合わせは深尾さん(電話とファクス0736・54・2034)。



神奈川県鎌倉市でのキャンドルナイト―昨年6月(キャンドルナイトワンピース実行委提供)